

令和4年度第2回国有林モニター現地見学会の開催報告

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

東北森林管理局では、令和4年4月から2年間の任期として管内5県にお住まいの47名の方に国有林モニターにご就任いただき、国有林野事業について理解を深めていただいた上でご意見・ご提案をいただいています。

こうした取組の一環として、令和4年11月9日（水曜日）、山形森林管理署の管内において、令和4年度第2回国有林モニター現地見学会を開催し、27名の方にご参加いただきました。

1. 山形森林管理署の概要、レクリエーションの森

蔵王ロープウェイ蔵王山麓駅において、山形森林管理署の概要とレクリエーションの森について、説明しました。

国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」として国民に提供しています。

今回の見学会を行った蔵王地域もレクリエーションの森に設定されており、スキーや登山を楽しむことができます。

2. オオシラビソ林再生の取組

蔵王は冬のオオシラビソ（別名：アオモリトドマツ）にできる樹氷でも有名です。

しかしながら、平成25年秋頃から、地蔵山頂付近でトウヒツヅリヒメハマキ（蛾）の幼虫とトドマツノキクイムシによる食害が広がり、多くのオオシラビソが枯死しました。東北森林管理局では関係機関と連携してオオシラビソ林の再生に向けた取組を行っています。その一つとして、被害の少ない標高1,300～1,400m付近で採取したオオシラビソの自生稚樹を、被害の著しい標高1,600m付近へ植栽する移植試験を行っています。

見学会では、地蔵山頂の厳しい寒風も体感してもらいつつ、オオシラビソの被害状況や自生稚樹の移植試験地をご覧いただきました。山形森林管理署より、現在の被害状況や苗木の生長はゆっくりであり、再生には長い年月がかかることなどを説明しました。



オオシラビソの被害状況



自生稚樹の移植試験地